コース2

武蔵野市役所周辺コース

移動距離　約3.5km
移動時間（徒歩）　約60分（滞在時間は含まれておりません）

スタート　武蔵野市役所前

1. 武蔵野市陸上競技場
   【説明：コース1の12】
2. NTT武蔵野研究開発センタ
   （外から見学）
   【説明：コース1の11】
3. 都営武蔵野アパート
   【説明：コース1の10】
4. 都立公園拡張予定地・
   中島飛行機変電室跡
   【説明：コース1の9】
5. 都立武蔵野中央公園
   【説明：コース1の8】
6. 「武蔵野市平和の日」制定記念樹
   【説明：コース1の7】
7. グリーンパーク遊歩道
   【説明：コース1の6】
8. 五日市街道・関町三丁目交差点付近
   【説明：コース1の5】
9. 延命寺
10. 源正寺
11. 武蔵野市高齢者総合センター
12. UR住宅・緑町パークタウン
    （グリーンパーク野球場跡地）

ゴール　武蔵野市役所前

平和観音・不発弾など戦争資料を保管

⑨延命寺

延命寺は、中島飛行機工場の真南200メートルほどに位置していたため、境内に爆弾が落ちるなどの被害を受けた。関前をはじめとする檀家さんに犠牲者が多く、33回忌を機に浄財を集め、1977（昭和52）年、境内に平和観音菩薩像を建立。住職の中里崇亮さんは、檀家さんなどが所持していた出征兵士に贈った「日の丸」の旗やのぼり旗、鉄かぶと、防空ずきん、爆弾の破片などの資料を集め、所蔵している。250キロ爆弾の不発弾破片も展示している。

身元不明の空襲犠牲者のための慰霊碑

⑩源正寺

中島飛行機武蔵製作所とのつながりも強い浄土真宗西本願寺派の寺院。古い新聞に、中島飛行機が工場用地の買収のため、源正寺に地主さんたちを集めて、取りまとめたことが出ている。一方、大戦末期になると、空襲による犠牲者の御遺骨が、いったん源正寺に運ばれ、慰霊祭が行われた。ところが、引き取り手のない御遺骨5体分（5人とは限らない）が残ってしまった。戦後、1948（昭和23）年に「倶会一処（くえいっしょ）」と記された慰霊碑が建立され、引き取り手のない御遺骨はここに納められた。また、境内の墓石には、機銃掃射の弾痕が多数見られる。

中島飛行機武蔵製作所正門跡

⑪武蔵野市高齢者総合センター

中島飛行機武蔵製作所の正門のあった場所。しかし、当時正門から出入りできたのは幹部だけで、多くの従業員、勤労動員学徒らは、通用門の利用しか許されていなかった。戦後、1948（昭和23）年、現在のセンターの北側に、中島飛行機武蔵製作所「殉職者慰霊碑」が建立されたが、高齢者福祉センターの前身である福祉会館建設にともない、1964（昭和39）年、東伏見稲荷神社（西東京市）境内に遷座された。

中島飛行機武蔵製作所・東工場跡、東京グリーンパーク野球場跡地

⑫UR住宅・緑町パークタウン

緑町パークタウンに沿うカーブした道路は、ちょうど1951（昭和26）年にできた東京スタジアム・グリーンパーク野球場の外縁にあたる。野球場は、神宮球場がGHQに接収されていたこともあり、開設当初は国鉄スワローズの試合や、六大学野球が行われていたが、激しい「砂ぼこり」のために、すぐ閉鎖され公団住宅となった。その公団住宅も老朽化のため建替えが進み、UR住宅・緑町パークタウンとなっている。（少し窪んで中央部が広場になっているが、ここが野球場の中心部である）。